

スローガン

バックアップ！ 我々是一个のチームだ

所 信

#### 【はじめに】

私は蔵王町で造園業を営む庭師の二代目です。私はかつて、技術をひたすら高めて個の能力を上げていくこと、またそういう能力の高い人材を集めることが、自社を優れた会社に育てるための一番の方法であると考えていました。しかし、私は 2005 年にこの公益社団法人白石青年会議所（以下白石 JC）に入会してから約 10 年間で、それ以上に優先されるべきことがあるということ学びました。それが「チーム」の形成です。単なる個の集まりが成せることと、その集団が「チーム」になったときに成せることには大きな差があることを、身をもって経験してきました。そして今思うことは、我々白石 JC の活動目的である「明るい豊かな社会」の実現とは、地域が一つの「チーム」になることではないかということです。

「チーム」とは共通の目的、達成すべき目標、そのためのアプローチを共有し、連帯責任を果たせる補完的なスキルを備えた集団です。個人がそれぞれ目的達成に向けて個別に努力するよりも、「チーム」として協働していけば、はるかに大きな成果をあげることができます。そしてその成果は「チーム」の人数に比例すると言えるでしょう。しかし、集団の人数が増えれば増えるほど、互いに目的等々を共有して「チーム」となることは非常に難しいことです。もし、地域の誰もがメンバーという「チーム」を形成することができたなら、それは正に「明るい豊かな社会」の実現ではないでしょうか。

白石 JC が創立以来 40 数年の長きにわたり続けてきた、「明るい豊かな社会」を実現する運動。本年度はそれを「地域の個人や団体・企業をメンバーとした、より大きなチームに成長させていく」運動と見立て、活動の指針とします。

#### 【白石 JC の地域での担い】

白石 JC は地域において、「チーム」育成のオーガナイザーとなることを目指します。オーガナイザーとは、主催者やまとめ役といった意味があります。また、生物学用語では形成体（周囲のただの細胞に働きかけて、胃や肝臓など機能を持った器官に変化することを促す能力を持った部位）という意味もあります。

現在、経済や教育など地域に山積する様々な課題に対して、多くの個人や団体・企業が解決に向けて取り組んでいます。その中には同じような目的であるにも関わらず、個別に活動している場合が多く、積極的に連携することは稀です。

しかしそれぞれがつながり、一つの「チーム」となればより大きな成果が得られるはずで

す。我々白石 JC は、時に「チーム」の主催者やまとめ役となり、あるいは人々に働きかけて「チーム」に引き入れたりすることによって、より大きな「チーム」形成のためにより重要な役割を積極的に担っていきます。

個が結集し「チーム」が形成されるためには、以下の①目的、②補完し合える責任、③互いを尊重したルールをメンバーが共有することが必要です。この三つの要素を明確にし、メンバーに伝えることがオーガナイザーの務めです。

### ① 目的の共有

メンバーの立場や考えをよく理解し、目的の共通項を導き出し、最大限に発展させることを目指します。例えば一つのイベントにおいて、出店の出店者とアトラクションの出演者がいたとします。目的を聞けば、出店者は多くの売り上げ、出演者は多くのギャラリーに見てもらふことと答えるでしょう。それぞれ目的は違いますが、集客という目的の共通項を導き出すことができれば、出店者と出演者は同じ目的を共有した「チーム」になれるのです。目的の共通項を導くための要素となる「チーム」メンバーの思いに、我々白石 JC は徹底的に耳を傾けます。

### ② 補完し合える責任の共有

目的実現のために、メンバーが個々の責任を相互理解することを目指します。責任を明確にする手法としては、組織図や役割分担表などを明示するといった方法がありますが、一方的に作成しても意味がありません。相互に補完する・バックアップする、個々の責任を全うするというメンバーの意識が、「チーム」形成に欠かせないからです。そういう意識を高めるために、目的達成のために何をしなければならないのか、またその中で自分が何をできるか、何をすべきかを、メンバー同士が互いに理解する場を作り出します。

### ③ 互いを尊重したルール共有

メンバーの誰もが、目的達成のために意見することや、担う役割を全うする責任が平等である状況を目指します。この平等であるというルールが守られなければ、目的が共通項から逸れていたり、バックアップしようという意識が薄れたり、さらには責任を放棄するような事態になる可能性があります。それを防ぐために、互いを尊重し、ルールが遵守される状況を作り出します。

地域で機能する「チーム」が形成されるまでには、地道で労力を伴うものです。それは、非常に難しいことのように感じる方も多いでしょう。ですが、我々にはすでに実績があります。白石市民春まつりへの参画しかり、わんぱく相撲仙南場所、駅前盆踊り等、地域活性化や青少年育成のため事業を通して、多くの人を「チーム」にしてきました。

春まつりを例にとれば、地域活性化を望む人、伝統・文化を重んじる人など様々な人々の思いの中から、多くの集客で賑わいを創るといった目的の共通項があり、神事、イベント、交通、運行など様々な役割を沢山の個人、団体が責任を担いつつ互いにバックアップしあい、春まつり協議会での報告・連絡という互いに尊重しあうルールを共有するという状況ができています。単年度で見れば、白石 JC はイベントだけの参加ですが、このような「チーム春まつり」が形成されたのは、脈々と引き継がれてきた JC 運動の成果の賜物と言えます。

我々が受け継ぎ、育んできた「チーム」をさらに大きくすることはもちろん、より多くの個人、団体・企業を巻き込んでより大きな、あるいは新しい「チーム」が形成されていくことに寄与することを目指します。

#### 【白石 JC メンバーの担い】

我々JC メンバー個人は、「チーム」形成のオーガナイザーとなるために聞く力、話す力、思う力という三つの力を高めることを目指します。

聞く力とは、目的の共通項を見出す過程で不可欠な力です。相手の思いや考えを聞くことが出来なければ、自分の知識や発想力の範囲内でしか結論を出すことが出来ず、「チーム」の数の利を活かすことができません。聞くためには、相手が話したいと思う状況をつくらなくてはなりません。聞く力は聞き出す力とも言えます。

話す力とは、「チーム」としての共有を得るときに欠かせない力です。共有すべき、目的、補完し合える責任、互いを尊重したルールを導き出す上で、自分の思いや考えを伝えること、また紡ぎだされた共通認識を新たに加わるメンバーに伝える必要があります。そこで、伝えて、理解してもらふ話す力を身につけなければなりません。

思う力とは、共通項を最大限にしたり、より効果的な手法を発案したりといった創造する力という意味と、相手を思い敬う力という2つの意味を持っています。創造する力は、メンバーの思いや考えを掛け合わせたり、見立てたりすることで、「チーム」をより楽しく魅力的にします。思い敬う力があれば、相手に対して払われた敬意によって、聞くときにはより多くの情報やアイデアを引き出すことができ、話すときは相手はこちらの話の聞こうとする気持ちが高まります。思う力は聞く力、話す力を補完し、高める力でもあるのです。そして互いに思う力は、チームの団結力を高め、目的を達成するためにそれぞれが持つ責任を、互いにバックアップしていこうという意識を高めます。

この三つの力をバランス良く養うことが、より大きく強い「チーム」を作ることにつながります。

我々は、自分のどの能力が足りないのか、どの能力を伸ばせるのか、常に自己診断を欠かさず能力向上のための努力をし続けます。また自分に得意な力があるなら、他のメンバーがその力を伸ばすための努力に協力することを惜しみません。この力はJC運動にのみ役立つものでは、決してないと考えます。家族、企業、団体など、私たちが所属する様々な集団を、「チーム」に変えていくことができる力なのです。そして「チーム」が増え、つながってまた大きな「チーム」を形成することが、結果として「明るい豊かな社会の実現」へと続くのです。

我々は、集団を「チーム」に変えるこの三つ力を磨きつづけます。

#### 【担いを全うするために】

人々の価値観は多様化し、職業やライフスタイルや人間関係や消費などのあらゆることが、「個人」に重きをおかれるようになってきたように思います。そういった状況のなかで「チーム」をつくることはとても難しいことになってしまいました。安易に「チーム」のようなものをつくる方法もあります。共通の敵やライバルをつくることで固める方法。あるいは「聞く、思う、話す」がなく強制的に目的、ルール、責任を課すというようなやり方もあります。確かにこういった手法は比較的短時間で集団をまとめることができます。しかしそうやってできた「チーム」らしきものは、結束力に欠け脆弱で時を経て存続し続けることはありません。我々が目指すのは誰もがメンバーであり、持続可能な「チーム」です。

我々はつながりつづけ、より大きなチーム形成のために、あきらめず意識して訓練を継続し、活動していきます。

#### <基本理念>

・対外：目的、補完し合える責任、互いを尊重したルールを共有し、互いにバックアップし合える「チーム」形成のオーガナイザーとなる

・対内：聞く力、話す力、思う力の三つの力のスキルアップを、意識して訓練し続ける

#### <基本方針>

・地域の個人や団体・企業をメンバーとした、より大きなチームを形成するための、社会開発事業・青少年育成事業の企画と実施及び検証

・「チーム」の一員であるという認識を高めるための内外に向けた粘り強い広報活動の実施

・チーム白石JCメンバーの発掘と育成

・三つの力を向上させるために下記項目の実施

・例会の企画と実施

・異業種交流会と会員親睦事業の企画と実施

・他LOMとの交流・連携事業の実施

・各種大会への積極的な参加